

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1484 号	氏名	伊藤 秀徳
学位審査委員	主査	西野 友哉	
	副査	青柳 潔	
	副査	前田 隆浩	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、尿意切迫感を必須とし加齢と共に増加する過活動膀胱 (overactive bladder syndrome: OAB) の治療薬の一つである $\beta 3$ アドレナリン受容体作動薬 ($\beta 3$ 作動薬: ミラベグロン) の血圧上昇や脈拍の増加といった循環器系パラメータに与える影響を実臨床において検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 2015 年から 2017 年までにおいて、ミラベグロン 50mg を投与した OAB 患者 288 名を対象に、投与前及び開始 12 週後の血圧と脈拍数を前向きに評価した。また、その結果を、若年者群 (65 歳未満) と高齢者群 (65 歳以上) の 2 群に分け、統計学的解析を行った。さらに、収縮期血圧 (SBP) 10mmHg 以上の上昇を“臨床上有意味な SBP の上昇”と定義し、SBP の有意な上昇を認めた患者の発生状況と、その予測因子についても解析した。研究方法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 解析可能であった 263 名において、全体では年齢に関係なくミラベグロン投与に伴う SBP の有意な上昇を認めなかったものの、臨床上有意味な SBP の上昇については 20.2% の患者に認めた。単変量解析と傾向スコアマッチング解析により、高齢 (65 歳以上) であることがミラベグロン投与後の SBP 上昇の危険因子であることが明らかとなった。これらの結果より、高齢者の OAB 治療において、ミラベグロン投与中の定期的な血圧測定的重要性が示唆された。</p> <p>以上のように本論文は泌尿器科領域の過活動膀胱患者の治療に関連する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			